

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語は、全国と比べて高い平均正答率になっています。特に、漢字を文の中で正しく使うことができることについては、全国平均を大きく上回り、日ごろからの継続した取り組みの成果が表れています。一方で、「読むこと」に関して、登場人物の人物像や物語の全体像を想像し、それを記述することに課題があります。
- ・算数も、全国よりも高い平均正答率です。特に、「数と計算」の領域においては全国平均を大きく上回り、式を立て計算したり最小公倍数を求めたりすることができています。一方、「変化と関係」の領域では、割合や比例の関係を捉えて数量を求める問題に課題が見られます。
- ・理科の平均正答率も全国より高く、一定の定着が見られます。特に、「エネルギー」の領域においては、光の性質について実験の結果を適切に記録し、分析解釈することができています。一方、「地球」の領域では、気温の変化と天気との関係について自分の考えをもつことに対し、平均正答率が低く課題が見られます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
ほとんどの質問について、全国と比べよい傾向が見られます。特に、「将来の夢や目標を持っている」「自分で計画を立てて勉強をしている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」について、とても高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「新聞を読まない」と回答した割合が全国に比べて高いこと、「授業以外の一日あたりの勉強時間が30分より少ない」と回答した児童がいることが課題です。また、「授業でICT機器を週3回以上使っている」と回答した児童の割合が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・学習規律を整え、児童が集中して授業に取り組める環境を整えます。また、自分の考えや思いを伝え合う活動を取り入れ、考える力、判断する力、表現する力を育てます。
- ・国語の学習では、登場人物の関係やその人物像がどのように描かれているかという表現に着目して読み、それらをもとに物語全体を想像し、物語から伝わってくることを文章に表す活動に取り組みます。
- ・算数では、日常生活の場面から割合について考えたり、図や式などを用いて数量の関係を表したりしながら理解を深めるとともに、繰り返し復習して定着を図ります。
- ・授業の中にICT機器の活用をこれまで以上に取り入れ、自ら意欲をもち個に応じた学習や協働的な学習に取り組めるような授業の工夫を行います。
- ・「NIE」（教育に新聞を取り入れる取り組み）を通して、新聞を活用した学習を計画的に取り入れ、新聞に触れる機会を増やしていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、自ら学習に取り組めるよう声をかけてください。
- ・学校での勉強や遊びの様子、また、地域や社会で起こっている問題や出来事について話題にし、家族での会話を心がけてください。
- ・ゲームやスマートフォン、パソコン等は、情報モラルを守り正しく使用できるよう声をかけてください。